

Japanese



南ダコタで一番大きいバッドランド国立公園へお越しのお客様は広大な土地を観覧することができます。この公園の総体二十五万エーカーは三つのユニットに分かれています。北のユニットはこの中で一番有名で遊覧も容易です。六万四千エーカーのバッドランド・ウィルダネス地域の中には環状道路にそって沢山見晴らしの良い展望台があります。一年中入館可能のベン・ライフル観光センターや四月から九月まで開館のシーダー・パス・ロッジもここに 있습니다。南方にはストロングホールド・ユニットとパーマー・クリーク・ユニットがあります。両方ともパイン・リッジ・インディアン保留地の中にあつて国立公園サービスとオグララ・ラコタが共同で管理しています。ホワイト・リバー観光センターは六月中旬から八月中旬まで開館しています。

バッドランドの環状道路の途中には沢山見晴らし台があつて、それぞれ景色の説明が書いてあります。個人で歩けるハイキング用の道もいいですし、夏の国立公園の特別な教育プログラムに参加するのもいいでしょう。どちらにしても双眼鏡を忘れないで下さい。運が良ければバイソンや枝角かもしかやコヨーテが見られるかもしれせん。ピンナクルの入り口から砂利道のセイジ・クリーク・リム・ロードを西に五マイル行くと変わったふるさとのようなロバート・プレーリー・ドッグ・タウンを訪れることができます。



バッドランド国立公園の中にある樹木、草花、動物、岩石、鉱物、化石等はすべて合衆国の法律で保護されています。写真やビデオの撮影は可能ですが、さわったり、引き抜いたり、持ち去ったりしないで下さい。野性の動物にえさをやると自然の中での生存力を失うので絶対に食べ物を与えないで下さい。毎年百万人以上の観光客がバッドランド国立公園をおとずれます。未来の観光客が充分にこの素晴らしい自然を味わえるように、これらの規則を守って下さい。



公園内の気候は短時間で急変する可能性があるため、どのシーズンでも衣類は夏用から冬用まで準備する必要があります。天気予報とまったく逆の天気になることもしばしばです。道路が凍っている時や嵐の時は特に気を付けて運転して下さい。雷雨やひょうや竜巻の時は避難所を探して下さい。冬でも強い紫外線を避けるために帽子や日焼け止めクリームは必需品です。バッドランドの岩石はとて柔らかくて、くずれやすいので、とくに美しい岩層などに登らないようにして下さい。

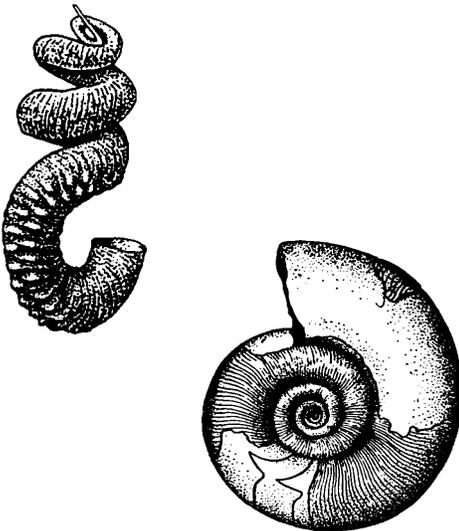
盗難はあまり起こりませんが、貴重品はポケットやバックバックに入れるか、車のトランクにしまして下さい。アメリカ野牛は体重が1000キロ以上あつて時速60キロ以上のスピードで走れます。公園内の動物は全部野性ですから百メートル以上離れて見ないと危険です。ガラガラへびやくもやその他色々な刺す虫に対する予防もわすれないようにしましょう。ハイキングをする時は地図、コンパス、予備衣類と水を充分持って行って下さい。



インターステイト90号線を東から西に向かって運転してバッドランド国立公園に来る場合は131番の出口を使います。そこから南ダコタ240号線にのります。240号線はバッドランド環状道路とも呼ばれてベン・ライフル観光センターはこの道にあります。240号線は公園の中を一回りした後ウォールという町の所でインターステイト90号線の110番の入口に連結します。東向きの旅行者は上記の逆路になるのでウォールの110番の出口で90号線を降りて131番から90号線に戻ります。公園の中の道はカーブが多く坂もありますが大部分は舗装されています。冬や雷雨時には舗装してない部分はすべりやすいので気を付けて下さい。

ハイキング専用道路は比較的短く、難路はありません。ただし公園内を横断ハイクする場合は前もってパーク・レンジャーに連絡する必要があります。水、コンパス、地図、予備衣類はかならず持たなければなりません。

バッドランド国立公園の近くには次のような観光地があります。マウント・ラッシュモア・ナショナル・メモリアル、ウインド・ケイヴ国立公園、ジュエル・ケイヴ・ナショナル・モニュメント、ブラック・ヒルズ国立森林。カスター州立公園はラピッド市の南にあってウンデッド・ニーはホワイト・リバー観光センターから25マイル南にあります。バッファロー・ギャップ国立草原はバッドランド国立公園のすぐ外側です。



バッドランド国立公園へのお客様のほとんどはベン・ライフル観光センターを訪れます。センターにはインフォメーション・デスクや展示品や土産店やトイレがあります。春から秋まで開館のシーダー・パス・ロッジは観光センターのすぐとなりであり、シーダー・パス・キャンプ場は歩ける範囲の場所です。

観光センターから5マイル以内の所には数々の見晴らし台やハイキング専用路、また説明板付きの自然観賞路も三つあります。化石観賞路は車椅子で通れます。クリフ・シェルフ自然路とドアー・トレイルはバッドランドの岩壁観賞向きのトレイルで体力的には少し激しいトレイルです。

地質学やプレイリーに興味がある方は長距離のノッチ・トレイルとキャッスル・トレイルをおすすめします。



絶滅してしまった非常に小さい動物から、とてつもなく大きい動物までが現在バッドランド国立公園になっているあたりを含む地方を遠い昔歩き回っていました。浅い海が後退したあと繁茂した暖かい森林に住んだ動物や、ずっと後に現われた乾燥した草原に住んだ動物が化石になって残っています。専門学者達が化石の観察と研究を続けるかぎり、過去の動物や植物についての新しい発見や知識が次々に得られることは間違いないと思われます。

大草原、又はプレイリーは木が育つには乾燥しすぎているけれど、砂漠になるには湿気がありすぎる所にできます。バッドランド国立公園の中にある草原は混合草プレイリーで5センチから180センチの高さの草があります。大昔、森林だった所が今は厳しい気候の大草原になっています。草は強風にも負けず、長い乾燥期にも枯れずひんぱんな野火の後にも再び繁茂する力があるからです。大草原には草食動物が増えました。動物の不断の踏みつけと草食にも打ち勝つ力のある草はついに大昔の森林を乗っ取ったわけです。